

C.L. information

Vol.35 2014 年 4 月

特 集

- ◆ 家屋木材を加害する害虫
- ◆ 食中毒情報



株式会社コントロール・ラボ

家屋木材を加害する害虫

4月に入り暖かい日が増え、春を感じる時期となりました。春は気温の上昇に伴って、害虫類が活動し始める季節でもあります。とりわけシロアリは4月頃から羽アリが飛び立つため、この時期に最も気になる害虫の一つでしょう。今回のC.L.informationでは、シロアリを始めとした家屋木材を加害する害虫についてご紹介させていただきます。

シロアリ類

シロアリは、建物や木材を食い荒らす世界的な大害虫です。木材の他にも、紙類、ダンボール、繊維、発泡スチロール、ポリウレタン系断熱材、農作物なども加害します。シロアリは、土中から蟻道という土のトンネルを作り、その中を移動し、まず建物の床下へ侵入・加害します。被害を放置していると床板が落ちたり、重度の場合、柱や土台部分の取り換えが必要になる場合があります。また、羽アリ（有翅虫）が大量に発生した時に初めてシロアリ被害に気付く場合も多いです。因みに、シロアリは、名前に「アリ」とついていますが、実はアリの仲間ではなくゴキブリなどに近い仲間になります。



シロアリによる被害

シロアリの種類と習性

日本には全部で22種生息していますが、その中で建物を加害するのは、主にヤマトシロアリとイエシロアリの2種です。ヤマトシロアリは、日本全国（北海道北部以外）に分布しており、一般的に被害は床下や壁面に集中する傾向があります。ヤマトシロアリの羽アリは、4月～5月頃の雨上がり後の晴れた暖かい日の午前中に飛び立ちます。一方、イエシロアリは、海岸線に沿った温暖な地域（神奈川県以西）にのみ分布しており、被害は床下だけでなく、垂直方向（2階や3階）にも広がります。加害の進行が非常に早いいため、甚大な被害になりやすいのが本種です。羽アリは、6月～7月頃の風のない温暖多湿な夕暮れから夜頃に飛び立ちます。

また、被害例は多くはありませんが、最近では乾いた木材中の僅かな水分で生育するアメリカカンザイシロアリという種類による被害が日本全国で報告されてきています。



ヤマトシロアリ
上：兵蟻、中：職蟻、
下：有翅虫
(写真：公益社団法人日本しろあり対策協会)

シロアリの防除対策

シロアリは日本全国に分布しているため、被害はどこでも起こり得ます。そのため、定期的に何らかの予防対策を行うことが大切です。一般的な予防消毒作業では、床下の土台周りを含めた、木材でできた部分への薬剤処理（木部剤処理）に併せ、土中からの侵入を防ぐために、土壌にも薬剤処理（土壌剤処理）を行います。現在の薬剤は以前と異なり、人やペットを含めた哺乳類への安全性が高く、成分が気化しにくく匂いもほとんどないものだけが使用されています。

また、最近ではベイト工法と呼ばれる毒餌（ベイト）を用いて、駆除だけでなく、長期予防可能な手法が広まってきています。ベイト工法では、土中などに埋設した専用の容器へベイト剤を設置し、薬剤の散布は行いません。安全性が非常に高いことと、薬剤散布を行にくい場所にも効果的であることから注目されています。

ヒラタキクイムシ類

ヒラタキクイムシは、フローリングやベニヤ板などの乾材を食害する約 2～8mm と体の小さい甲虫類の仲間です。日本では 6 種が確認されています。ヒラタキクイムシは、主にナラやラワンなどの広葉樹材を好み、針葉樹材では被害は出ません。シロアリと比べると激害にはなりにくいですが、被害は 4～6 月頃に多く、天井板、壁板、建具、家具等の様々な場所が食害を受けることがあります。ヒラタキクイムシは、木材の内部を加害し、直径 2mm 以下の小さな孔をあけ、このとき木屑（フラス）を孔から出します。駆除方法としては、被害箇所内部へと専用エアゾール剤を注入する方法が有効です。また、多数発生している場合は、これに併せて、成虫の発生時期に燻煙剤を用いることで駆除効果が上がります。



ヒラタキクイムシ
(写真：公益社団法人日本ペストコントロール協会)

ナガシクイムシ類

ナガシクイムシは、約 2～15mm の甲虫類の仲間で、木材や穀物内部に侵入し食害します。日本では 16 種が確認されています。代表種のチビタケナガシクイは体長約 3mm と微小で、主に竹材やラワン材に小孔（約 2.5mm）をあけて内部を食害します。駆除方法としては、ヒラタキクイムシと同様に、被害箇所への専用エアゾール剤の注入や、成虫の発生時期の燻煙剤の使用が有効です。また、コナナガシクイは、ムギなどの食品の貯蔵害虫として知られています。



チビタケナガシクイ
(写真：公益社団法人日本ペストコントロール協会)

シバンムシ類

タバコシバンムシを始めとして、シバンムシは穀粉の食品害虫として有名な甲虫類の仲間ですが、6 種が建築物の木材に被害を引き起こします。特に、ケブカシバンムシは、古い建築物や仏像等の貴重な木造建築物に 2～3mm の孔をあけるため、文化財における重要害虫です。また、シバンムシの幼虫には、アリガタバチという人を刺す小型のハチが発生する場合がありますので注意が必要です。駆除方法は、ヒラタキクイムシの場合と同様で、被害箇所への専用エアゾール剤の注入や成虫の発生時期の燻煙剤の使用が有効です。



ケブカシバンムシ
(写真：原色昆虫大図鑑)

カミキリムシ類、タマムシ類

カミキリムシやタマムシも建築物の木材に被害を起こす場合があります。カミキリムシには多くの種類がありますが、問題となる種としては、体長 1～2cm 程のスギカミキリやクロトラカミキリ、ルリボシカミキリ等が挙げられます。タマムシの場合では、クロタマムシやウバタマムシといった体長 1～4cm 程の種が、マツ材から孔をあけて脱出します。両者ともに 5mm 以上の比較的大きな孔をあけるため、梁などではとても目立ってしまいます。このようなカミキリムシやタマムシの被害の場合、建築前に野外で材に産卵されたものが数年以上経過してから成虫として脱出している場合がほとんどで、建築後の侵入はごく稀です。対策として、脱出孔に専用エアゾール剤で薬剤処理し、その後、埋めることによって目立たなくさせることができます。



クロトラカミキリ
(写真：公益社団法人日本ペストコントロール協会)



クロタマムシ

ハチ類

意外と思われる方も多いと思いますが、ハチ類も建物の木材に孔をあける場合があります。被害で多いのは、クマバチやハキリバチ、マルハナバチによるものです。クマバチの場合、太い枝などに孔をあけ、そこに産卵する習性があるため、家屋の壁板や垂木に孔をあける場合や、壁や屋根の隙間に営巣する場合があります。クマバチのメスは毒針を持っていますが、直接捕まえたりしない限り、積極的に人を刺すことはありません。孔が目立つ場所であれば、カミキリムシやタマムシの対策と同様に、孔に薬剤処理し、埋めることによって目立たなくさせることが有効です。



キムネクマバチ

セミ類

セミによって建築物へ軽微な被害が出ることもあります。セミの場合は、産卵管を突き刺すことで、約数 mm～1cm の綿状のささくれ立った跡が柱や壁等に多数残ります。木に埋め込まれた卵は、ほとんどの場合、数か月以上後に孵化し、土中へもぐります。このため、セミの場合は、柱や壁の内部が食害されることはありません。因みに、かつてセミが間違って光ファイバーケーブルに産卵することで断線事故が多発したことから、その後セミに産卵されにくいケーブルが開発されています。



アブラゼミ

建物の木材に孔があいている場合、その孔の径を調べることで上記の種類をおおまかに判別することができます。孔のサイズは小さい順に、以下ようになります（注：種によって順序が異なる場合もあります）。

ヒラタキクイムシ < ナガシクイムシ ≡ シバンムシ < カミキリムシ ≡ タマムシ < ハチ

また、穿孔を受けた建築材の種類によって、ある程度判別することができます。

食中毒情報

今月もノロウイルスによる食中毒が発生件数・患者数ともにトップでした。例年通り、5月頃までは発生が継続しそうです。また、今月はヒスタミンを原因とする食中毒が発生していました。ヒスタミン食中毒は、じん麻疹などのアレルギー様の症状を特徴とし、赤身魚に多く含まれるヒスチジンが細菌（ヒスタミン生成菌）の増殖によりヒスタミンに変えられ、それを食べて2～3時間以内に発症します。ヒスタミンは熱に強いので、加熱したからといって安心は出来ません。魚は、低温で保管し、長期保存せずに新鮮なうちに食べるようにして下さい。

全国食中毒発生状況 (3/15～4/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	13	312
腸管出血性大腸菌	1	33
ヒスタミン	1	22
カンピロバクター	1	2
不明・その他	6	128

株式会社コントロールラボ

本社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7
阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15
福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3
フリーダイヤル
☎0120-540-643
URL <http://controllabo.co.jp>

TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-3576
TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-6802
TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-6321

